

18禁

ADULT
ONLY

赤井×安室 大正風

Detective Conan unofficial fanbook

20211219.CCA

18 歳以上対象
FOR AGES 18 AND UP

赤井 × 安室 大正パロ

し

き

を

め

ぐ

る

想い
重
ね
て



しさをめぐる 想い重ねて、







「もろんととは
言ったけど」



「道安わらず
手を離すと
緊張するの
か」



「ずっと胸が
どきどきして
る」

「おれは
おれは」



「……」

「僕と赤井が
向かいになって」

「三日月の
月日が経った」

X
A
A





1976...





SUN

SUN

SUN

SUN

SUN

SUN



...

唐井……

SUN

SUN

SUN



あんなに
いい匂い



...

あんなに
いい匂い

SUN

SUN

SUN

SUN





足跡の？

え？



ああ
以前の場所と
離れてほしいと
思われた

今度は零くん

君にも一緒に
来てもらえると
分かるんだが！

僕もですか？



いいえ

一緒に
居たいから

十分すぎる
理由です

一緒に
行きます

三じゃ
だめかな











雨の音が
きこえる

お前のせい
で

それなのに
お前のせい
で



……赤井は
お前のせい
で

……お前



……

お前のせい
で



赤井が
僕じゃないと
ならないのと同じで

……抱かないんですか





僕をまっすぐ
見つめてくれる

その瞳が
好き



胸を震わせる姿

もっと欲しいと
思っています

んん

んん



触れたい

一緒にいたい

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

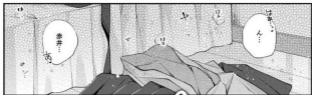
んん

んん

んん

んん











…俺は
見たいば

響くんの
感じて
いる
ところ

全部

…っ



…っ
乾す
かしい

そんなに
見ないで
赤井…

ま



気持ちよくなって
感じている声も
聞きたい

…っ

いつもの響くんも
十分に魅力的だが



抱かれて乱れた
君の姿も…俺にしか
見せない君を

全部を愛したい

響くん

…っ

あ

…っ











これから
もっとと
押れるや

僕の知らない

場所まで

痛んぞござ
……

……大丈夫
……







あかい

中に……
して……

だいたいお

だか……

腹に無理を
させるのは



……

……

……

……



受赤
井の中
け止め
熱で
たい

びびり
びびり
びびり







赤井のことが

大好きです……っ

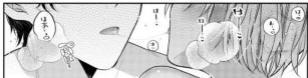


赤井……

……っ







…続き

して？

「赤井は
愛の言葉を
囁きながら

僕のすべてを
愛してくれた

そして僕も

そんな赤井に
応えたくて

すれ違った時間を
埋めるように

腕がりを
求めた

僕にさよなら

握かめるように

互いの名前を
何度も呼びながら

僕と赤井は
戻ってた

…
…



また
開いてる

赤井の
つけた傷…



—初めて
身体を繋げた
あの日から







貴方の胸で
いつまでも笑って
支えていきたいのに

あー

あー

貴方の胸で
いつまでも笑って
支えていきたいのに

僕にも……

あー

あー

ほ

零くん！



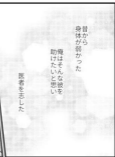
零

零

……承くは
生きられない



零くんは
病を患っていた



今教室の外を彩っていた
数多の赤葉はもう見え
えす

季節は廻り
雪が深々と降り積もる
……

しさをめぐる 想い重ねて、

終

18禁

ADULT ONLY

祈りはいつまでも

赤井×安室 大正ロケ

Detective Conan unofficial fanbook

20211219.CCA

しきをめぐろ 祈りはいつまでも

赤井と
過ごした日々が

何よりの宝物だった



...僕と
友達になって
くれないか？

ああ

...僕に？

奥方と出逢って



貴方と共に



移り変わる
四季の風は
いつまでも
吹く



向懐に
られる

赤井の
あざやかな笑顔



そして



それだけで

僕の心は
満たされていた



だから僕は願っている

さびた心

癒い未来でも……

しきをめぐる 祈りはいつまでも



一枚に倒れた
あの日から

雪くんは日に日に
身体を弱らせていた



あの日...



彼は元々、
身体が弱かった



倒れた日から
時間を戻りさせて
いたのだ。だから

零くん

...



今は少し
楽になってます



一歩井

貴女はどうだ？







無理をしている
わけではないんです



「それでも
これはでも」



「響くん」

「貴方に惚えたい
ことがあります」



「僕の話を……
聞いてくれますか」



昔から
僕のことを
助けてくれた



赤井は…



…あの時も



子供の時も



今も…
懸命に僕の命を
救おうとして
くれています

何よりも
香井は

それに！

僕のことを

愛して
くれました

僕の人生を

貴方が
香井が

かけがえのない
宝物に
してくれました



だから
伝えさせて
ください

…ありがとう
赤井



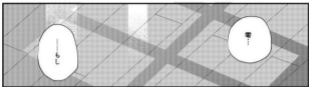
僕が僕自身で
在り続けることが
できました

赤井が
愛をくれたから



貴方から
いたから

今の
僕がいます







君と
過ごした日々

愛し合った時間



絶対に忘れない
…忘れたいくない

君と…時を
愛した日々



そのすべてが…

俺と君が
共に歩んで
過ごした日々は

かけがえのない
時間だった…!!



…志井

貴方のその
よっすきな
気持ち

本当に…嬉しい

赤井

ずっと

貴方を…愛しています

昔も今も…そして
いつか遠い未来
巡りあえた先でも…

零くん——

—ああ

俺もだよ

ん

…ずっと
君を愛してる







僕に愛という感情を
教えてくれた



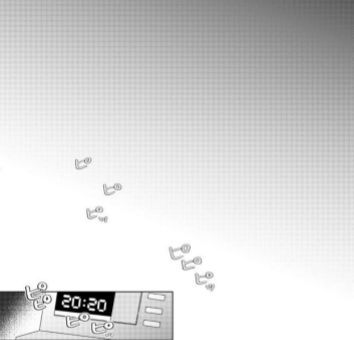
そして……

——暖かい愛情で
包んでくれた貴方

貴が……好きだよ

貴が……好きだよ

廻り廻う……ときが
できぬから……





内閣は
買えていない
……だが少しだけ
引つかかる



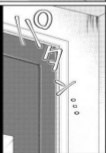
「夢を見た」といっ
ぽんやりとした
言葉めを返して、
おこり

……まただ



これから
初めて会う
男の元に向かう

けれど些細な
ことだろう……
そう自分に
言い聞かせ







そしてそれは
相手も
——ライイセ
同じさうだった



この男は
特別だ



——刹那の時間
それでも確かに僕たちは
相手の陣から視線を
逸らせずいた

心が
へじき



それからもずっと

僕の心の
片隅に貴方がいて



主はほめて
褒められたい
癖



死んだなんて
認めたくなくて





貴方を

追いかけた

生きている……

そう信じて



この手を動かす
この感情の

答えはまだに
見つかからないまま

ただひたすらに
追いかけた

香井

今日はうちで
飲みましょうか

はあ……

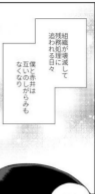
！





…そのはずだった

友人…というより
むしろ僕と
いうような
不思議な関係に
落ち着いていた



相手が壊滅して
関係が崩壊して
忘れられる日々

僕と赤井は
互いのしがらみも
なくなる



君と話すのは
楽しいな

また後で
食事に行こう

はいはい



目の前の男が
僕にどのような
感情を向けているのか

だが…赤井が
置かせることに
見つけてしまつて
気がついてしまつて



はあ、このままの

心のままでも生きてい



そして
僕のほうは…

「白の前の英が
ライという
コードネームで
呼ばれていた頃から



次第にそれは

置かれて
いるのだで

置かされていて
気づかされた



暖いなら
肩を貸すよ

ん……



赤井の温度だ
……あたたかい



赤井の体温が
伝わってくる
不思議な気持ち
強くなる



それじゃあ

お言葉に
甘んぢやおう
かな……

頼むよ



…津井の……
好きだって







んっ

アハハハ

あ…
け…
け…



いった
ばかりで

真と同時に
キスされたら

アハハハ

アハハハ

またっ
イロク
……



でも…

……

……

美津の
キス

……

キスも
足っちも

……

アハハハ

だいた
……

…命のは
堪らないな



俺も君の
唇にすっか
りなんだ



甘くて

ただただしく
熱めてくる
舌の動き

濡れる吐息に

濡れる声



どれも今まで
知らなかった
君だ

もっと知りたいし
そんな君を
大事にしたい





響くん！

香井…

だからもっと
貴方がほしい

まるでずっと昔から
「好き」がわかってきた
ことのように



だから香井…っ
もっと！側に



もっと深くまで
僕を求めてほしい

香井と…

深く
愛し合いたい



「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」





……いじり
だつたまじりに振う







夏には
空に咲く花火を

秋には紅葉を
冬には白く
積もる雪を…

そんな景色を
貴方と見たい



赤井の隣で



これからは

ずっと…



…ああ



もう君を
一人にしないよ

……
……
……
……
……
……
……

…ほっぺたでじじいか

愛する貴方に
涙りぬぐってあげ
てきたなら

貴方と
四季をめぐる
貴方と共に
人生を歩みたい

…行くよ

零くん

きつとまた
会えるって
信じてました

…貴方に

この先もずっと…
いつまでも
貴方と一緒に